

運転している人なら運転中に「ヒヤリ」としたり「ハッ」としたこと（ヒヤリ・ハット体験）が何度かあると思いますが、なかでも多いのが前車に追突しそうな経験ではないでしょうか。

そこで追突事故を起こさないためのポイントをまとめてみました。



追突事故はこのようとき起こる

平成24年における全国の類型別交通事故発生件数をみると、追突事故が34.8%で最も多く、全体の3分の1を占めており、次いで出会い頭事故、人対車両の順となっています（図1）。

追突事故のパターンには、さまざまなものがありますが、比較的良好に発生する追突事故パターンをまとめてみると、次のようになります。

●交差点を通過するとき

- ・黄信号にさしかかった前車が停止して追突（図2①）
- ・対向右折車のため前車が停止して追突（図3②）
- ・交差点を右折した前車が対向車のため停止して追突（図3③）
- ・交差点を直進した前車が横断歩行者等のため停止して追突（図4④）
- ・交差点を左折した前車が横断歩行者等のため停止して追突（図4⑤）
- ・交差点を右左折したところ、右左折先の駐車車両に追突（図4⑥）
- ・信号が青に変わり発進したところ、まだ発進していなかった前車に追突

●単路を走行しているとき

- ・前車のタクシーが客を乗せるために急停止して追突
- ・トンネル入口で急減速した前車に追突
- ・道路外から自車の前方に進入してきた前車に追突

●高速道路を走行しているとき

- ・ETCの入口ゲートで急停止した前車に追突
- ・見通しの悪いカーブの先の渋滞車両に追突
- ・渋滞に巻き込まれ、ノロノロ運転で漫然運転となり追突

●その他の状況

- ・雨や雪でスリップして追突
- ・夜間運転で前車との車間距離が詰まって追突
- ・早朝や長距離運転で居眠り運転となり追突

図1 事故類型別交通事故発生件数の割合（平成24年）
（平成24年版交通統計・交通事故総合分析センター）

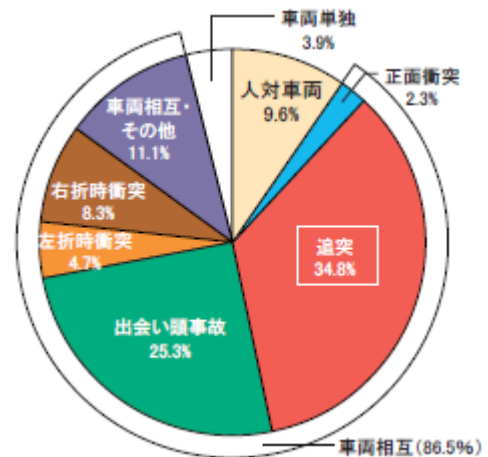


図2

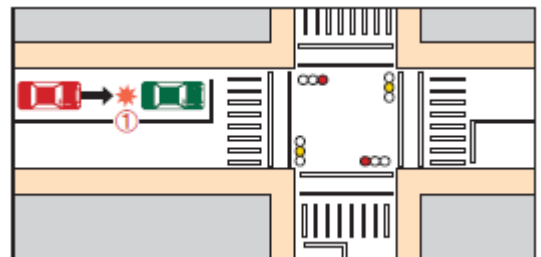


図3

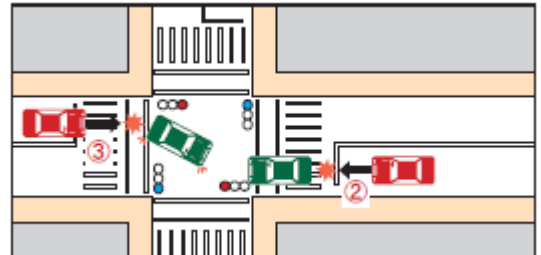
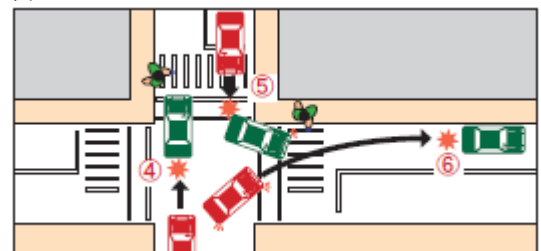


図4

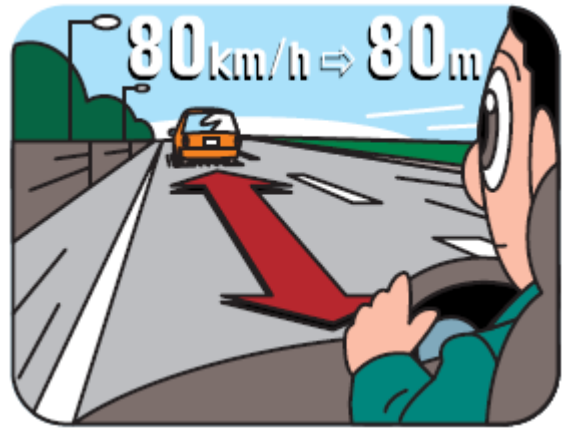




追突事故はこうして防ごう

十分な車間距離をとる

前車が急停止しても、十分な車間距離をとっていれば追突を防ぐことができます。車間距離の目安としては、高速道路の場合、時速の数字を距離に置き換えた数値（時速80kmであれば80m）、一般道路では時速の数字から15を引いた数値（時速60kmであれば「60-15」で45m）と考えとよいでしょう。また、前車が通過した地点を自車が通過するまで2～3秒の間隔をとる「車間時間」を目安にする方法もあります。



わき見、漫然運転をしない

車間距離が十分であってもわき見は追突の危険を高めません。運転中は決してわき見をしないようにしましょう。また、低速で前車に追走しているときなどには、漫然運転になってしまい、前車の停止に気づくのが遅れて追突することもあります。低速走行でも油断しないように注意しましょう。



「だろ運転」をしない

前方の信号が黄色に変わったとき、「前車は停止せず交差点を通過するだろう」とか、単路の走行時に「前車が急に減速したり停止することはないだろう」といった自分に都合のよい「だろ運転」はせず、常に「前車は減速や停止をするかもしれない」と考えて運転しましょう。

前車の先の状況にも気を配る

対向右折車や横断歩行者のため、前車が急停止することもあります。前車だけでなく、その先の状況にも気を配り、前車の停止を早めに予測しましょう。



前車の発進を確認して発進する

交差点での発進時に、信号だけを確認して発進したり、隣の車線の車が発進したのでそれにつられて発進すると、まだ、発進していない前車に追突することがあります。発進時には、必ず前車が発進したかどうかを確認しましょう。

路面や心身状態に注意する

雨で濡れた路面など停止距離が伸びる状況では、いつも以上に車間距離をとり、スピードを抑えた運転をしましょう。また、疲労や寝不足で集中力が低下しやすい長距離運転では、こまめに休憩をとるようにしましょう。

株式会社ヤマザキ 保険事業部

〒 101-0032 東京都千代田区岩本町3丁目8番16号

Tel 03-3863-6271 Fax 03-3851-5017

【制作】株式会社インターリスク総研 開発グループ